



きらきら



みどりこども園 令和8年6月 文責：古賀

梅雨入りが近づき、園庭の木々の緑が雨に濡れて一段と色濃く鮮やかになる季節を迎えました。室内で過ごす時間も増えてきますが、子どもたちはそれぞれお気に入りの場所を見つけ、じっくりと遊びに取り組んでいます。

さて、園では遊戯室を活用した「ランチルーム」がすっかり定着し、新しい日常の風景となりました。以前のように全員で一斉に「いただきます」をするのではなく、一人ひとりが自分の遊びのキリがついたタイミングで食事に向かいます。「今日はこれくらい食べられるかな」と、自分のお腹と相談しながら量を決め、好きな席を選んで座ります。そこではクラスの枠を超え、年下の子が年上の子のお箸の使い方をじっと見つめたり、真似してみたり、お兄さんお姉さんが優しく配膳を手伝ったりと、あちこちで異年齢の温かい対話が生まれています。自分で決めた分を「食べ切った！」という達成感は、子どもたちの食への意欲を大きく育てています。

今月は、日々の保育の振り返りから、「子ども主体の保育」を通して見えてきた子どもたちの頼もしい姿をお伝えしたいと思います。

【遊びの中で育ち合う子どもたち】

■ 「憧れ」が引き出す意欲（未満児クラス）

未満児クラス（0～2歳児）の振り返りには、「憧れ」から生まれる自発的な行動が多く記録されていました。テラスや園庭で、年上の子たちが夢中になって泥だんごを作ったり、虫を探したりする姿をじっと観察し、見よう見まねでそっと手を伸ばす姿があります。保育者が言葉で促すよりも、「あんなふうになりたい」「あれをやってみたい」と心が動く瞬間が、子どもたちの成長を強く後押ししています。少し難しいことにも、憧れの眼差しを持ちながら果敢に挑戦していく姿に、たくましさを感じます。

■ 遊びを深め、自分たちで決める（以上児クラス）

クラスの振り返りからは、遊びの「持続力」と「協同性」の深まりが顕著に表れています。「昨日の続きをやろう！」と登園してすぐに友だちと声を掛け合い、自分たちで必要な道具を工夫して作り出す姿が見られます。試行錯誤しながら遊びを展開していく中で、時には意見がぶつかることもありますが、それも大切な学びの機会です。自分たちで折り合いをつけ、どうすれば上手くいくかを話し合うプロセスを、保育者はそっと見守り、必要な時だけサポートするよう心掛けています。また、「キリがついたから、そろそろお昼にしよう」と時計を見て自ら生活リズムを刻む姿もあり、自己決定の力が確かなものになっています。

1日	月	朝礼
3日	水	お弁当の日
4日	木	うんどうあそび
11日	木	うんどうあそび
12日	金	三根西小交流会（年長）
18日	木	うんどうあそび
19日	金	えいごあそび（参観日）
22日	月	保育料等の口座振替日
24日	水	水難避難訓練
25日	木	うんどうあそび
29日	月	個人面談スタート

【7月の主な行事予定】

7月 1日（水）プール開き



なんたうんたうん